

2024年も早いもので5月になりました。今年も半分近く過ぎたのかと唖然とするばかりです。東京の桜も散り若葉になり、その後のハナミズキの花が盛りです。山々も木々の若葉で、新緑が目優しく映ります。

本号の特集は「小児感染症の話題」です。「これからのわが国の感染症サーベイランスに必要な考え方」では、今回の新型コロナウイルス感染症（コロナ感染症と略）の時に手作業で入力していた手法でなく、電子カルテからデータ収集するシステムの構築の重要性が述べられています。わが国では、電子カルテの会社が多数あり、なかなかシステムの統一は難しい気がします。米国では電子カルテの会社は一強で、データが収集しやすいでしょう。「COVID-19に合併した非典型溶血性尿毒症症候群の1男児例」では、コロナ感染症から溶血性尿毒症症候群を発症し、補体関連遺伝子変異が見つかった症例の報告です。コロナ感染症重症化の1例です。「新生児病棟における職員のCOVID-19が発生した際の濃厚接触者対応の解析」では、新生児病棟のスタッフがコロナ感染症に罹患した場合に、スタンダードプリコーションと適切なマスク使用で2次感染を起こさなかったという貴重な情報です。「COVID-19関連急性壊死性脳症の1例」では、コロナ感染症による壊死性脳症の1例が報告されています。「三重病院におけるCOVID-19入院症例の成人・小児例の臨床的特徴」では、調査期間中にコロナ感染症で入院した864例について、成人と小児の臨床像の特徴が比較されています。小児ではけいれ

ん、虫垂炎、特発性血小板減少性紫斑病、川崎病などの多彩な併存症を認めることがあったという報告です。「突発性発疹の疫学および臨床像の変化」では、近年の突発性発疹の臨床像の変化について述べられています。従来、乳児期発症が多かったのが、1歳台になってきていること、発疹を認めない例もあることなどの変遷が述べられています。「Secondary vaccine failure が疑われた父親から三次感染したワクチン未接種児の麻疹例」では、新幹線内で感染した父親から伝染した1歳1か月の児の例が報告されています。

特集以外には「原発性免疫不全症の診断と感染予防——マスキングの導入にあたって」の総説、トピックスとして「頭の形」外来、幼児期のBMIと成人期のBMIとの関連、ミダゾラム口腔溶液によるけいれん重積の治療についての論文が載っています。また、オピニオンでは12歳以上の小児に端末を使って自死リスクのスクリーニングを施行することを提唱されています。そのほか「症例」ではふたつの症例報告が載っています。そして「臨床研究入門」の最終回では臨床研究実行のためのto doが解説されています。「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教室から血液に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、盛りだくさんかつ日常診療に役立つ内容になっています。ご一読下さいませようをお願い致します。

(中西 敏雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第65巻 第5号 5月号

2024年5月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,190円（本体2,900円＋税10%）

年間購読料金

定価48,950円（本体44,500円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。